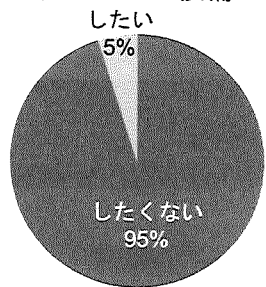


生徒会役員への立候補について



生徒会の立候補について
報道局では1年次を対
象にアンケート調査(回答
数60件)を実施した(結果
はグラフ参照)。立候補し
たくないという人は95%と、全体の9割以上

生徒会役員選挙が9月21日に行われる。この選挙の立候補者は2年次生だけでなく、1年次生も対象となっている。立候補者を今現在集めているが、例年、立候補者が少ないという現状だ。そこで報道局は、生徒会について1年次生にアンケート調査や取材を行った。

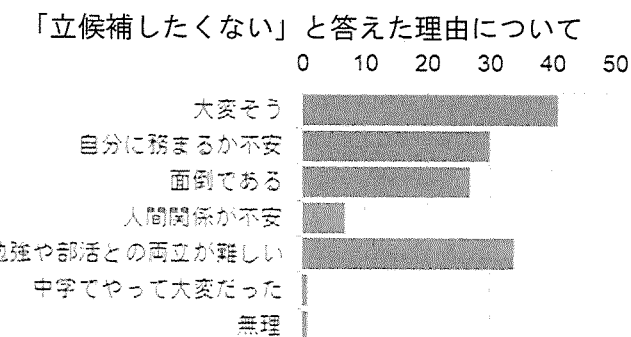
集 特 生 徒 会 選 挙

候補者数低迷 原因は

1年次立候補「したくない」9割
アンケート

勉強との両立 可能

生徒会執行部・柿崎さんに取材



生徒会副会長を務めている柿崎さん。主に生徒会では学校祭や体育大会などの行事運営、生徒会企画を考える、目安箱に投函されてくることについて話など、最近ではコンタクトレンズの空ケース回収も行っているそう。活動頻度は行事の前でほとんど毎日、切羽詰まっていなければ不定期開催だと話した。

「これまでに経験がある」などがあつた。次に、これからの生徒会に期待したいことの項目では、「清潔活動(美化活動)」や「より快適な学校生活の充実」などが書かれていた。一方、「特になし」「ありません」などが大多数を占めていた。このことから生徒会の活動を知らない人が多いということが伺える。



▲生徒会で副会長を務める柿崎さん



発行所
網走南ヶ丘高校
報道局
発行責任者
我妻孝介

令和4年度生徒会役員選挙

立候補締め切り 9月13日(火) 16時
投票日 9月21日(水)

アンケートの結果を受けて柿崎さんは大変だけれど、確実に成長には繋がる。「部活や勉強との両立が難しい」という生徒の声に對しては、やる気があれば誰でも両立は出来る、勉強との両立は大丈夫とのこと。最後に1、2年次生に向けて「やる気があれば出来るのでぜひ入ってください。また、やる気がなくてもなるようになるので皆さんお願いします」と話した。

特集を終えて



▲各階に設置されている目安箱

生徒会は学校生活の改善、学校行事の運営など、生徒向けの活動を多く行っており、今や南高生にとって生徒会が必要不可欠な存在だ。また、その生徒会内部では、生徒のみならず、教職員、地域社会などとのつながりを通して自身の成長が見込めるなど、やりがいが多くあることが分かった。

生徒会に入ってから何かをやり遂げ、経験を積み重ねることはそれぞれの将来の役に立つのだと思う。今年度の生徒会役員選挙、立候補の締め切りは9月13日。今一度考えてみてはいかがだろうか。

第3回 ②

狩野亮さん
(チェアスキー選手)

「コーチいなければ今の僕はない」 転機のトリノパラリンピック語る



「可能性がある」と「可能に押されて」と、4年に1度の出場した4年、初めての世界最高峰の戦いに、狩野さんは圧倒された。自分自身の努力は本気で、絶対的な世界に立ってない。今すぐ

日本に帰りたい」と痛感したという。3年ほどでその成果は出たという。2010年、バンクーバー冬季パラリンピックにて狩野さんはスキー、滑降で金メダル、滑降で銅メダルを獲得。世界レベルまで成長したことを示した。「(トリノ)パラリンピックのあの、今の僕はいない」と、今局員の前で感謝を語った。

南 高 あの前輩に学ぶ

網校 100 周年記念
報道局 特別連載企画